西東京市市民協働推進センター
平成25年度第11回運営委員会会議録

■開催日時：平成25年2月18日(火)午後7時～9時
■開催場所：イングビル3階第3会議室
■出席委員：有馬委員、岸委員、小嶋委員、坂口委員、田中(紀)委員、田中(友)委員、田辺委員、富沢委員、豊永委員、中村委員、藤江委員＜以上11名、五十音順＞
■事務局：内田センター長、鈴木、栗山事務局長、丸木地域福祉課長、塚澤主事

## １．報　告　事　項

１．業務報告について

事務局より、1月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談対応状況について説明があった。

委　員：行政が力を入れて本格的に西東京市地域コミュニティ基本方針で地域協議体をつくり、地域の連携をとるとの意思表示と理解してよいか。今後、ゆめこらぼはどう関わっていくのか。

事務局：２年間でモデル事業をつくり、今後の方針を検討していくと聞いている。結論が出ているというよりは、方向を決めるためのモデル事業である。地域協議体をつくりたいが、あくまで自主的な組織であり、市が先導していくわけではないと理解している。

委員長：ゆめこらぼはオブザーバーとして会合に出席しているのか。

事務局：ゆめこらぼは組織として出席しているわけではない。社会福祉協議会はオブザーバー的に出席している。地域福祉コーディネーターが地域協議体のメンバーとして出席している。

委員長：分野別で動いている市民活動団体を排除するものではないと聞いているので、NPOや市民活動の情報を持っている中間支援組織として、ゆめこらぼも参加してはどうか。

事務局：事業という形で明確になっていないため、今はセンター長が市民として傍聴している。今後、あり方を考えていきたい。

委員長：情報交換会の中で中間組織のあり方について意見交換をした際、トピックス的な話はあったか。

事務局：特にトピックス的なことはなく、地域コミュニティ基本方針の紹介を受けて、三鷹市地域協議会の実状はどうなっているか等、質問ならびに地縁の協議体の話が多かった。

委員長：地縁組織あるいは地縁の協議体とNPOや市民団体の関係性についてのものか。

事務局：三鷹の場合、７つの区域に住民協議会が出来ており、協働センターを作る時に疑問を持っていた住民の理解を得るために協議を続けたという説明だった。

２．平成26年2月以降の事業について

事務局より１月以降の実施事業について説明があった。

委員長：「行政職員と市民活動団体との懇談会」はどうだったか。

委　員：初めて参加したが、ワールドカフェ形式ではひとりひとり発言する機会はあるが、メンバーチェンジが３回あるため表面的なことで終わってしまい、参加した団体としては消化不良的な印象をもった。いろいろな意見をファシリテーターがまとめていたので次につなげて欲しい。市民団体としては掘り下げた話はできず物足りない感は残ったが、若い職員が参加していたので、担当職務を超え直接市民団体の話を聞くことが出来、職員研修としては良かったのではないか。市民団体としてはもう少し掘り下げた話まで到達したかった。

事務局：職員は市民団体を敬遠しがちだが、懇談会をやることにより職員側からは親近感がわいてよか

ったという感想が多かった。団体側からは踏み込んだやり取りができなかったとの意見もあり、今後、他の進め方を検討する必要があるかもしれない。

委　員：役職職員の参加はほとんどなかったと聞いている。質問に対し、責任ある回答は得ることはできたのか。

事務局：今回は、担当課に発言を求めたり発言に対して責任を取る場ではなく、本音を話してもらう意図でワールドカフェ方式をとった。

委員長：以前は行政職員の研修の後に市民団体との出会いの場として設定されていた。懇談会を若い職員の参加がある貴重な場として活かすか、市民がもっと発言が出来る場にするか、アンケートなどを基にして、今後の懇談会の性格付けを検討し、組立てを考えて続けてほしい。あるいは、若手職員、役職職員等に分けた分科会形式も考えられる。全国レベルでも分野ごとの懇談会はあるが、課を横断した懇談会は稀有なので上手く進むことを願う。

委員長：「協働を考えるシンポジウム」はどうだったか。毎回、他市を含め職員の参加が多いのは素晴らしいが、市民の参加が少ない。継続するためには市民参加を増やすことも考え、日時と会場を考える必要があるのではないか。内容はどうだったか。

委　員：日時設定はあまり問題ではないと思う。
三鷹市の事例は歴史的にも素晴らしかったが、市民活動メンバーが三鷹市長になっているので西東京市は真似はできないと思う。今回のシンポジウムについて三鷹市の話だけで統一してもよかったのではないか。

事務局：職員研修としては良かったと思うが、時間が足りず、活動紹介が中心となった。パネルディスカッションでの意見交換の時間があまりなかった。次回は意見交換が出来るようパネリストの人数など工夫をしていきたい。

委員長：「まちづくり円卓会議」でテーマ「障がいのある人もない人も分けない居場所づくり」は最後か。

事務局：このテーマでは最終回とする。来年度は課題を探すところから考えたい。

委員長：ゆめこらぼ事業だからやるのではなく、具体的に継続的なネットワークやつながりをつくる等の具体的なアクションに繋がるようなコーディネーションをファシリテーターにお願いしてほしい。

## ２．審　議　事　項

１．前回の会議録について

委員長：特にご意見がないようなので、確定稿とする。

## ３．協　議　事　項

１．広報力アップセミナーについて
事務局より、企画説明があった。

委　員：チラシにある参加費の実費というのは資料代のことか。

委員長：そうだ。講座は有料にすることで参加意識を高めていきたい。この「伝えるコツ」セミナーは今年 2 月 4 日で 10 周年を迎え、これまでに延べ 100 回、約 4000 人が参加した。この冊子を使用しセミナーができる講師が 10 数名いる。講師により内容が変わることもあるので、何回も受講する方もいる。

委　員：募集の方法はどのようにするのか。市民活動団体実態調査で広報に課題があった団体を優先して声掛けすることなどを考えているのか。

事務局：市報に載せるため、応募者を絞ることはできないが、好評であれば次年度の開催も考える。
委　員：ゆめこらぼ通信 2 月号にイベント情報が挟み込まれている。見やすくわかり易いので素晴らしいアイデアだと思う。

２．来年度の運営委員会委員について

事務局より、退任、継続となる委員、新規選出に関する説明、提案があった。ジェンダーバランスも考慮し、声かけを事務局に依頼することとなった。

## ４．　そ　の　他

1・次回運営委員会日程について

■　日時：平成 26 年 3 月 18 日(火)午後 7 時～午後 9 時
■　会場：イングビル 3 階　第 1,2 会議室